

台風に対する農作物等の技術対策（6月期）

令和8年（2026年）6月1日

農 林 水 産 部

1 水稻

事前対策	事後対策
<p>1 迅速な入排水ができるように、入排水口や水路などの点検・整備を行う。畦畔の点検・補修など漏水対策を行い、湛水状態が保てる状態にする。</p> <p>2 強風による植え傷みや脱水症等の風害を防ぐために、深水状態で管理する。</p> <p>※ 湛水管理については水利状況に応じ、可能な限り対応すること。</p>	<p>1 台風通過後は通常の水管理に戻す。</p> <p>2 潮風害が発生した場合は、速やかに洗い流す。</p> <p>3 干拓地等で海水流入が生じた場合は速やかに排水し、清水を入れ、かけ流しを行う。</p>

2 大豆

事前対策	事後対策
<p>1 は種前のほ場では、作業が円滑に行うことができるように、額縁明渠等の排水対策を徹底する。</p> <p>2 迅速な入排水ができるよう、入排水口や水路などの点検・清掃を行う。</p> <p>3 畦立溝の着実な連結や排水口への連結を行い、ほ場外排水の円滑化を図る。</p>	<p>1 台風通過後は速やかな排水に努める。</p> <p>2 発芽前に冠水し、発芽障害を受けた場合は、播き直しを行う。</p>

3 麦類

事前対策	事後対策
<p>1 収穫直前のもので、ライスセンター等乾燥調製の対応が可能なものは早く刈り取る。</p> <p>2 収穫が台風通過後になる場合は、迅速な排水及びコンバイン収穫の妨げとなるようなゴミの流入を防ぐために、排水口や水路などの点検・清掃を行う。</p>	<p>1 台風通過後は速やかな排水に努め、穂発芽等による品質低下を最小限にとどめる。</p> <p>2 台風通過後は速やかな排水に努め、収穫可能な状態となったら速やかに刈り取る。</p> <p>3 収穫まで期間があり殺菌剤の散布が必要となる場合は、収穫前日数に留意して剤を選定する。</p>

4 施設野菜・施設花き・施設果樹

事前対策	事後対策
<ol style="list-style-type: none"> 1 ハウス周辺の排水対策を実施し、ハウス内への雨の流入を防止する。 2 防風ネットの点検・補強を行う。 3 ハウスの点検・補強を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ハウスバンドの締め直し、両妻面等開口部の補強（ばたつき防止） (2) サイドビニール、天井ビニールの点検、修繕を行う (3) 出入口、サイド巻き上げ、天窓を固定し、風の入り込みを防止する (4) 筋交い、補強支柱の取り付け 4 施設周辺の飛散しそうなものは事前に撤去しておく。 5 収穫可能なものは早めに収穫する。 6 停電に備え、発電機などの確保、準備をしておく。 7 風が出てきたら、換気扇を稼働し、ハウス内を減圧する 8 進路や風の強さなど、今後の気象情報に注意し、必要に応じて被覆の除去を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 強風の恐れがなくなれば、ハウス内の湿度が上がる前に開放する 2 施設に浸水した場合は、速やかな排水に努める。 3 高潮により海水が侵入したほ場や、冠水したほ場については、露地野菜・花きに準じて対策する。 4 施設の倒壊・破損の状況を確認して、修復可能な被覆資材の破損は速やかに修復する。 5 電気設備等がぬれた場合、感電に十分注意し、復旧に当たっては水気をふき取り、通風等により十分乾燥させた後、電源を入れる。 6 ハウス内の湿度が上がるので、病害の予防防除を行う。また、風により作物が傷んだ場合は、銅剤等で防除する。 7 アンカーの打ち直し、ハウスバンドの締め直しなど補強を行う。

5 露地野菜・露地花き

事前対策	事後対策
<ol style="list-style-type: none"> 1 遮光ネット、防風ネット・支柱、フラワーネットの点検、補強を行う。 ただし、倒壊およびネットが飛ばされる恐れが生じる場合は、事前にネットを取り外す。 2 収穫期の果実・花きはできる限り早めに収穫する。 3 苗床（イチゴ等）、つる性のもの（カボチャ、スイカ等）、定植直後のものについては、べた掛け資材による被覆を行う。 4 潮風害に備え、用水の確保と動力噴霧機の準備を行う。 5 額縁明渠や畦立溝と排水口の連結を行い、ほ場外排水路を確保する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 支柱を立て直すとともに、倒伏した株を速やかに引き起こす。また、風雨により株元が浮いていたり、覆土が流れている場合は、土寄せを行う 2 停滞水による根腐れ、生育不良が発生しやすくなるので、排水路を確保し、速やかに排水する。 3 はね上がりで、葉裏等に泥が付着している場合はよく洗い流す。 4 降雨がなく、潮害を伴う場合は、人に危険性がなくなれば直ちに散水し、茎葉に付着した塩分を洗い流す。 5 海水が流入した場合は、排水を確保した後、多量の灌水で除塩する。 6 傷果・葉、破損枝を除去する。

6 露地果樹

事前対策	事後対策
<ol style="list-style-type: none"> 1 防風ネット、果樹棚、マルチなどの点検、補強を行う。 2 潮風害に備え、用水の確保、動力噴霧機の準備、動力源の確保に努める。 3 幼木や高接ぎ樹の支柱を点検し、補強する。 4 収穫期に近づいているものは、状況によって早期収穫を行う。 5 病害の事前予防散布（カンキツかいよう病などの細菌病）を行う。 6 排水路の点検等を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 潮風被害樹へ速やかに散水を行う。 2 枝折れ除去、倒伏木の引き起こし処置を行う。 3 断根樹に対する速やかな灌水、敷き草を実施する。 4 停滞水のほ場外への排水を図る。 5 病害（特に細菌病）の予防防除を行う 6 落葉により樹体の日焼けの恐れがある場合は白塗剤を塗布する。 7 落葉等により葉数が減少し、着果負担が過大となる場合は摘果を実施する。 8 施設各部の破損、緩みなどの点検・補修を行う。

7 畜産

事前対策	事後対策
<ol style="list-style-type: none"> 1 降雨に備え、畜舎周囲に排水溝を掘ったり、土嚢を積むなどして、施設内への雨水の侵入を防ぐ。 2 糞尿貯留施設の点検を行い、降雨による流出が心配される場合は補修する。 3 畜舎及び堆肥舎等の点検を行い、屋根や壁の補修及び補強を行う。強風であおられた場合に破損や飛散する可能性がある危険な箇所や物については、適切に補修、収納などの対策を行う。 4 浸水の可能性がある場所の資機材は、予め移動させる。 5 畜舎などは停電・断水の恐れがあるので、自家発電機の試運転、発電出力と使用する施設機械の要求量の点検、給水タンクの手配などの対策を事前に行う。 6 放牧中の牛は、台風の大きさを考慮した上で、必要に応じて事前に収牧するなどの対策を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 浸水した畜舎では速やかに排水対策を実施するとともに、通風換気などにより乾燥を促進する。また、畜舎内の雨水が引き次第、汚染部分を水洗いして消毒剤や石灰散布、石灰塗布による疾病の発生予防を行う。 2 停電で搾乳が不可能な場合、給水制限すると同時に栄養価の高い飼料給与は控える。通電後、直ちに搾乳する。なお、前搾りを行い乳房炎の有無を確認し、罹患している場合は治療する。 3 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診断を受ける。 4 堆肥舎や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い環境流出を防ぐ。